



2021年
9月1日(水)
第14号
(食プロジェクト)

「食」という価値の再考

法人内では、7月に法人設立20周年記念式典が開催されました。日本でも、コロナ禍で東京オリンピック・パラリンピックが開催され大きな節目の年になっているのではないのでしょうか。「食」と「オリンピック」という点に着目すると、東京オリンピックの選手村食堂運営を受託した『エムサービス(株)』という企業をご存じでしょうか。この企業は、**介護施設・病院・競技場・一般企業の受託食堂運営を主に展開する同一業種のトップシェアを誇る会社**です。企業理念の「優れた品質のサービスを効率よく提供することにより、お客様の満足・従業員の幸福。会社の成長を実現します。」を軸に、「食」から日本の未来を支えます。食へることは生きること。豊かな暮らしを彩っていくこと。健康な体を育てていくこと。「食」は、生活の根幹を支える重要な要素の一つです。あらゆる世代の方に、

あらゆる場面で「食」を提供しているエムサービスは、日本の健やかで豊かな未来を支える活動を展開していきます、と強調しています。

<https://www.dimservices.co.jp/>

実際にオリンピック大会期間中には世界中の参加選手&役員スタッフヘフードメニュー約40万食を提供したことになるそうです。

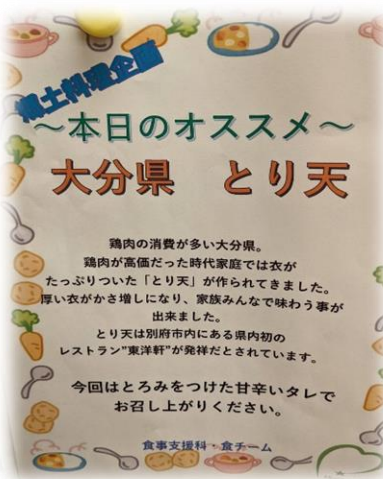
「食」と「コロナ禍」

話題をコロナ禍に変えると、世の中はデリバリーサービスが賑わい、オンライン飲み会という文化も生まれました。旅行が難しい分、地方の物産展や地域の道の駅が賑わいました。共通することは、「食」を求めて人が動くということ。法人内でも、「郷土料理特集」や「イベント食」がコロナ禍で活性化したことは事実です。「食」と「幸福」の密接な関係は言うまでもありません。「生きるための食べる」とどまるのか、「人の幸せのために食から支える」に進むかでは、社会福祉の価値も大きく変わります。

NEXT STAGE

食プロジェクトが、食事支援課(科)をフィーチャーすることで、人(財)と組織がエンパワメントされる過程を目的の当たりになっています。食プロジェクトでは、郷土料理企画が進行しています。多摩ブロックの郷土汁(第12号掲載)を皮切りに、足立ブロックでも郷土料理メニューがスタートしました。

足立ブロック郷土料理



編集後記: 石田 和也 (特別養護老人ホームさくら/食事支援科/調理師)

食へることは、生きることです。ただ食へるだけは、つまらなく人の生活は豊かになりません。だからこそ、「食」に携わるプロとしての役割があるのだと思います。今後も、各事業所で様々なアクションを起こしていきます。「食」から少しでも「幸福」に繋がるプロセスを大事にしていきたいと思っています。